

I これまでの研究について

本校の研究の経過は図1に示すように、大きく四つの時期に分けることができる。

まず、平成16～22年度までは、自閉症児の特性に応じた教育課程の研究に取り組んできた。その後、平成23～26年度までは、子供たちの思いや考えといった内面の育ちに着目しながら、一人一人の実態に合わせた指導の在り方を追求するために、日々の実践をベースにした研究を進めてきた。平成27～29年度までは、それまでの研究の成果を踏まえて、子供たち一人一人が確か

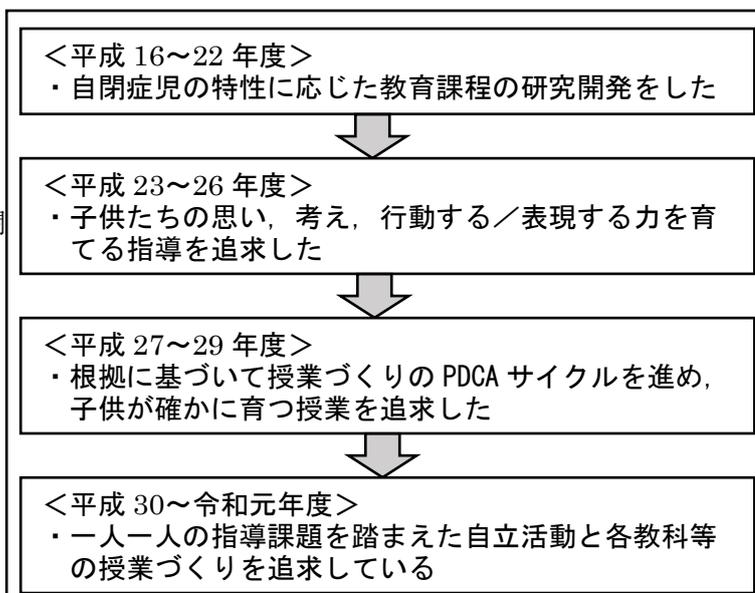


図1 本校の研究の経過

に育つ授業を行うためには、どのような方策が必要であるかを、実践を通して明らかにするための研究に取り組んできた。そして、平成30年度からは、子供たち一人一人の指導課題を踏まえた自立活動の指導と各教科等の授業づくりについての研究を進めている。

II 平成30年度、令和元年度の研究について

平成29年4月に告示された特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領には、自立活動の指導に当たって、子供一人一人の「障害の状態や特性及び発達の程度等の確かな把握」に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、(中略)個別の指導計画を作成することが明記された。このことを踏まえ、各教科等を学ぶための基盤となる力を育てる自立活動の指導を理解することが、子供が確かに育つ指導につながると考え、平成30年度から「一人一人の指導課題を踏まえた各教科の授業づくり」を研究テーマに設定し、自立活動を主としながら教科(平成30年度：音楽、令和元年度：体育)にも焦点を当て、授業実践を積み重ねてきた。

1 自立活動の指導

平成30年度の自立活動の授業づくりでは、子供の学習上又は生活上の困難さから指導課題を導き出すプロセスとポイント、また、授業づくりで大切なことを明らかにした。令和2年度は、幼児児童一人一人の指導課題を明らかにした上で、指導する場・人・時間を明確にした指導計画を立てて指導することで、自立活動の指導を着実に行うことができることを明らかにした。また、そうした指導を行う上で、大切になる学級経営のポイントを整理した。以下、「指導課題を導き出すプロセスとポイント」、「学級経営のポイント」について述べる。

(1) 指導課題を導き出すプロセスとポイント、自立活動の授業づくりで大切なこと

教師が指導課題を導き出すためには、子供の実態から学習上又は生活上の困難さを把握し、その理由や原因を子供の実態に戻りながら導き出すプロセスをたどる必要があることや、それぞれのプロセスの中で押さえておくべきポイントがある。また、自立活動の授業づくりで大切なこととして、「自立活動の時間の指導と他の指導の関連性を図ること」、「子供に合わせた指導方法を見つけていくこと」、「自立活動の評価は、子供の困難さの改善という視点から行う必要があること」の3点が挙げられる。(詳細は「平成30年度 自閉症教育実践研究協議会 実践研究集録」)